

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 飯田市

1. 事業名称

飯田市 地域との協働による日本語教育推進事業

2. 事業の目的

24年度に地域の関係者との協働で行なった日本語教室「わいわいサロンⅡ」の活動を、さらに関係機関等を拡充したものととして展開する。より多くの関係機関等と連携する過程で、当市の日本語教育を推進する体制整備を図る。教室に参加する学習者が、実践的な日本語を学ぶとともに、日本文化や地域の人々に触れることにより、地域社会へ踏み出していける架け橋的な役割を担えることを目指す。

3. 事業内容の概要

◆子育てに関する日本語教室「子育てとにほんご」の開催

子育てをしている外国人の母親を対象として、子育てに関する日本語や子育てに必要なことを学ぶ教室を開設する。企画・運営には、日本人外・国人両方の母親数人にもスタッフとして関わっていただき、内容や教材を検討する。また地域の子育て関係団体や集いの広場等の市の事業等とも連携を図り、地域で開かれている学級や講座等へも、外国人の学習者が参加していける流れをつくる。教室に関しては託児を設け、昼間の開講とし、月2回程度6ヶ月間余りとする。

◆日本語教室「わいわいサロンⅡ」の開催

24年度に引き続き、上記子育ての日本語教室に並行する形で、夜間の日本語教室を前期・後期の2期開催する。対象は成人の外国人一般とし、生活に必要な実践的な日本語を学ぶ。扱うテーマや教材は、24年度にも参加していただいた日本語支援者の方々を中心として検討する。その中で地域の自治会や各関係団体と連携をとりながら、前期には祭りなど地域の伝統行事について理解を深めたり体験したりできる回を設ける。また後期には地域の公民館活動について理解を深めたり体験したりできる回を設ける。

◆飯田市の日本語教育における体制整備

上記2つの日本語教室を開催していく上で、教室のスタッフだけでなく、様々な方面の関係団体等と協働で企画運営をする必要性がある。教室のスタッフと関係機関の人々でなる企画委員会を教室開講前に開催し、地域を巻き込んだ日本語教育の体制整備を図る。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 6月26日 13:00~ 15:00	2時間	飯田市公民館	春原直美、榎野武司、氏 原理恵子、大澤志那子、 熊谷文世	・今年度文化庁委託事業について ・飯田市として応募、採択された経過 ・事業の概要 ・市内日本語教室の近況	・「子育てとにほんご」「わい わいサロンⅡ」の組み立てに ついて ・日本語支援者の養成につ いて
2	平成25年 9月9日 15:00~ 17:00	2時間	飯田市公民館	春原直美、榎野武司、吉 澤裕美子、氏原理恵子、 大澤志那子、熊谷文世	・事業進捗状況 ・日本語教育大会参加報告 ・市内日本語教室の近況	・後期学習テーマの選定に ついて ・指導者研修について
3	平成25年 11月25日 15:00~ 17:00	2時間	飯田市公民館	春原直美、榎野武司、氏 原理恵子、大澤志那子、 熊谷文世	・事業進捗状況 ・指導者研修について ・市内日本語教室の近況	・学習者の社会教育関係団 体サークルへの参加につ いて ・外国人の地域参画につ いて
4	平成26年 3月10日 15:00~ 17:00	2時間	飯田市公民館	春原直美、榎野武司、吉 澤裕美子、大澤志那子、 熊谷文世	・平成25年度事業の総括 ・来年度事業について ・日本語教育に関する意見・情報交換	・外国人・日本人が同じ目線 で関わり合える地域参画の ための仕組みづくりについて

5. 取組についての報告

○取組1:子育てとにほんご

(1) 体制整備に向けた取組の目標

市内各地で行われている乳幼児健診、子育て講座、つどいの広場などの子育て中の親子を対象にした講座等への外国人の母親の参加は極めて少ないという現状がある。今回の事業で、異国で子育てをする上での様々な不安や問題を取り除き、社会へ踏み出す力をつけていただき、外国人も楽しく子育てができる環境を整える。そして少しでも多くの受講者が、地域の学級等へ参加していくことを目指す。

(2) 取組内容

・自身が育った環境とは異なる文化の中で子育てをしている外国出身者を対象に、子育ての場面で出会う日本語を中心にして、その周辺の環境や制度、コミュニケーションなどにまで分野を拡げて学ぶ教室を開設する。子どもの年齢は特に制限せず、内容も乳幼児期から中学生くらいまで対応できるものとする。具体的には、乳幼児健診等での日本語、家庭でのコミュニケーション、言葉の発達について、保育園や学校の先生とのやりとり、お弁当講習会など。

・各教室の内容や進め方については、企画委員会を設けて検討する。企画委員には、日本語指導者のほかに、地域の子育て関係団体の方や、保健士など、子育て関係者にも数名加わってもらって協議し計画を立てる。

・教材を作成し、今後の日本語指導に役立つよう蓄積させる。

・全12回の講座を実施後、受講者から一番関心の高かったテーマでアンコール開催。

(3) 対象者

未就学児～高校生までの子どもを持つ日本人・外国人

(4) 参加者の総数 35 人

(出身・国籍別内訳 日本10人、中国10人、ブラジル7人、フィリピン3人、ベトナム2人、カナダ1人、台湾1人、韓国1人)

(5) 開催時間数(回数) 27時間15分 (全 13 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 7月13日 10:00～ 12:00	2時間	県公民館	7人	台湾(1人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	開講式/子どものことばの発達①	言葉の発達段階について言語聴覚士がイラストを描きながら説明した。	知久万寿美	堀川美也子、青山知子、大嶋多恵子、宮下米子、牧原博子
2	平成25年 7月21日 10:00～ 12:00	2時間	県公民館	6人	カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	子どものことばの発達②	ブラジル・ベトナム出身の企画委員より日本での子育てや言葉の教育について事例発表を行なった後、フリートーク。言語聴覚士から直接アドバイスもいただいた。	知久万寿美	堀川美也子、安田ゆかり、新井麻由子、牛木美千子、鈴木文子
3	平成25年 8月27日 10:00～ 12:00	2時間	伊賀良公民館	8人	中国(2人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	みんなでおしゃべりしましょう	「わが子自慢」「子育てで困っていること」についてフリートーク。外国人の母親同士で悩みごと相談をしている場面もあった。	木村深幸、平岩美代子、秋姫政、伊ノエ マルリセ、グエン トック、グエトウ	大嶋多恵子、堀川美也子、安田ゆかり、市村祐子、今村奈美枝
4	平成25年 9月8日 10:00～ 12:00	2時間	県公民館	15人	中国(4人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(2人)、ブラジル(4人)、フィリピン(1人)、日本(2人)	お弁当をつくってみよう	講師を招いて顔のついたおにぎりやオムライスなどをレシピを基に作った。子どもの運動会等にとって持って行ける人が出てくると良い。	山田安世	宮下米子、穴水博美、安田ゆかり、五味秀子、田中純子
5	平成25年 9月18日 10:00～ 12:00	2時間	県公民館	8人	中国(1人)、カナダ(1人)、台湾(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、韓国(1人)、日本(2人)	子どもの病気	小児科の先生を講師に迎えた。グループトークを先に行い、不安に思うことや悩みを話し合ってから、そこで出た話に応えていただく形で先生のお話をうかがった。親同士で話せたこと、専門家の話を聞いたことで、「安心できた」と終了後話す受講者の声があった。	和田浩	安田ゆかり、牧原博子、矢澤ヨシ子、市村祐子、鈴木文子

6	平成25年 10月12日 10:00～ 12:00	2時間	伊賀良公民館	7人	中国(2人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	保育園や学校のこと	何かと準備品の多い保育園のことや、先生との会話練習などを行った。スタッフが持ち寄った園児服やコップ袋等グッズを直接手に取りながら情報交換をした。	木村深幸、平岩美代子、秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、ゲン トック	安田ゆかり、牧原博子、矢澤ヨシ子、新井麻由子、鈴木忍
7	平成25年 10月27日 10:00～ 12:00	2時間	伊賀良公民館	8人	中国(2人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	保育園生活のこと	保育士で地域の子育て事情に詳しい子育て応援アドバイザーを講師に、保育園での生活、保育士の想い、つどいの広場などの子育て支援事業等について座談会形式で学習した。	松村由美子	安田ゆかり、牧原博子、矢澤ヨシ子、新井麻由子、羽場幸子
8	平成25年 11月9日 10:00～ 12:00	2時間	伊賀良公民館	9人	中国(2人)、台湾(1人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	日本の習慣・マナー	子育てをしていく中での「お金」についてグループトークをし、冠婚葬祭や学校などの式での服装や持ち物について参加者同士考えながら学習した。	木村深幸、平岩美代子、秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、ゲン トック、グエトウ	安田ゆかり、宮下米子、市村祐子、新井麻由子、羽場幸子
9	平成25年 11月13日 10:00～ 12:00	2時間	県公民館	9人	中国(2人)、台湾(1人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	健診や予防接種のこと	飯田市の保健師長を講師に、予防接種の種類や注意点、電話予約の練習、問診票の語彙などについて学習した。	橋爪志保	後藤典子、大嶋多恵子、池戸真由美、今村奈美枝、矢澤順子
10	平成25年 11月27日 10:00～ 12:00	2時間	県公民館	6人	カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、日本(2人)	病院で症状を伝えよう	主に子どもがかかりそうな病気や怪我の症状の伝え方について学習した。いつから、などの質問にも答えたり、注意点等を自分から質問することも練習した。	木村深幸、平岩美代子、秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、ゲン トック	宮下米子、堀川美也子、小笠原伸子、下平富美子、鈴木忍
11	平成25年 12月7日 10:00～ 12:00	2時間	伊賀良公民館	8人	中国(1人)、カナダ(1人)、台湾(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、韓国(1人)、日本(2人)	日本の遊びや歌	企画委員で選んだ童謡や手遊び歌、身体を使う遊びやお手玉等を体験した。子どもが保育園等で覚えてくるが、親には教えてくれるところはないのでうれしいと、受講者には好評だった。	木村深幸、平岩美代子、秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、ゲン トック、グエトウ	矢澤ヨシ子、安田ゆかり、新井麻由子、羽場幸子、市村祐子
12	平成25年 12月21日 10:00～ 12:00	2時間	県公民館	10人	中国(2人)、台湾(1人)、カナダ(1人)、韓国(1人)、ベトナム(1人)、ブラジル(1人)、フィリピン(1人)、日本(2人)	みんなでおしゃべりしましょう	お菓子や軽食を持ち寄って、お茶と一緒にいただきながら、一年間の講座を振り返った。出席できなかった回の再開講を希望する声や、全体的に今後も開講を希望する声があがった。	木村深幸、平岩美代子、秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、ゲン トック、グエトウ	大嶋多恵子、青山知子、穴水博美、五味秀子、堀川美也子
13	平成26年 3月1日 13:30～ 16:45	3時間 15分	上郷公民館	21人	中国(5人)、ブラジル(4人)、フィリピン(1人)、日本(11人)	いっしょにかんがえよう♪ 子どものことば	小学校以下の子どもを持つ親と外国籍児童生徒の支援に関わる人を対象に実施。講師より『子どものことばの習得とアイデンティティ』というテーマで基調講演があり、それを受けて保護者・支援者が疑問に思うこと、悩み等をグループごとに話し合った。まとめとして、話し合った内容を発表し、それらに対して講師がアドバイスをした。	田中里奈	青山知子、後藤典子、大嶋多恵子、堀川美也子、梁取千枝子



子育て中の外国人
のための講座
※日本人もOK

飯田市公民館
子どもだて
と
にほんご

日本で子育てするって大変ですか？

子どものこと、あなたのこと、相談できる人
はいいますか？

ひとりで悩まないで、一緒に子育てについて
考えてみましょう。



そこで・・・

この地域で子育てをしている外国人の方々が、
子育ての場面で出会う**にほんご**や**知識**を
学習する講座を開きます。

【4】以外は**受講無料**！

託児あり（子どもひとり¥100、要予約）

申し込みは、TEL、FAX、Eメールで飯田市公民館まで。

または、裏面の申込書を、市役所外国人登録窓口、

りんご庁舎、公民館へ出してください。

飯田市公民館 熊谷

TEL 0265・22・1132 / FAX 0265・22・1022

Email iccc01@city.iida.nagano.jp



☆☆☆ 講座メニュー ☆☆☆

※時間は全回 10:00から12:00まで
※参加できる日に来てください

【1】7月13日(土) 飯田公民館
「開講式／子どものことばの発達①」

【2】7月21日(日) 飯田公民館
「子どものことばの発達②」

【3】8月27日(火) 伊賀良公民館
「みんなでおしゃべりしましょう」

【4】9月8日(日) 飯田公民館
「お弁当をつくってみよう」(実習)
★材料費がかかります

【5】9月18日(水) 飯田公民館
「子どもの病気」(講師:小児科医)

【6】10月12日(土) 伊賀良公民館
「保育園や学校のこと」

【7】10月27日(日) 伊賀良公民館
「学校生活とことば」

【8】11月9日(土) 伊賀良公民館
「日本の習慣・マナー」

【9】11月13日(水) 飯田公民館
「健診や予防接種のこと」

【10】11月27日(水) 飯田公民館
「病院で症状を伝えよう」

【11】12月7日(土) 伊賀良公民館
「日本の遊びや歌」

【12】12月21日(土) 飯田公民館
「みんなでおしゃべりしましょう／閉講式」



子育て中の外国人
のための講座
※日本人もOK

がいくじん
子そだて中の外 国 人のみなさん、
きてくださ〜い!!

Para as Brasileiras que tem
filhos pequenos...venhaim participar!!

请育儿中的中国人们参加!!

Let's enjoy
parenting together!!

いはいしこうみんかん
飯田市公民館
子そだて
と
にほんご

Special

いっしょにかんがえよう♪

子どもことば

3月1日(土)

受付 13:00~ / 開始 13:30~

上郷公民館[かみさとこうみんかん] 103 会議室

託児あり(¥100)

申し込みは、ちやう 画、FAX で飯田市公民館まで。

または、あうしやう 申込書を、しやくしやう 市役所外国人登録窓口、りんご りんご行舎、こうみんかん 公民館へ出してください。

【子育てとにほんご 申込書】

TEL 22-1132 FAX 22-1022 飯田市公民館 熊谷行

名前(なまえ)

日

住所(じゅうしょ)

出身(しゅっしん) (国籍(こくせき)など)

託児(たくじ)

必要(ひつよう)

(人)

不要(ひつよう)

子どもの年齢(ねんれい)

(7) 参加者の募集方法

幼稚園・保育園、小中学校へチラシ配布、外国籍の子どもがいる家庭にダイレクトメール、市役所外国人相談窓口にてチラシ設置、新聞掲載、外国人キーパーソンに呼びかけ依頼

(8) 特徴的な活動風景(2~3回分)

【第4回 9月8日(土)10:00~13:00 鼎公民館 学習テーマ:「お弁当をつくってみよう」】

参加者:15名 講師:山田安世さん

〈準備〉開始1時間ほど前から講師及びスタッフが集合して、材料を計量・分配したり洗ったりといった準備を行った。

〈あいさつと日程説明〉参加者が集合したところで開講のあいさつをし、日程とメニューの説明をした。参加者は4つのグループに分かれた。

〈デモンストレーション〉グループでの調理に入る前に、講師が一つのテーブルで、全メニューのデモンストレーションを行い、参加者はやさしい日本語で書かれたレシピを見ながら見学した。子どものお弁当に入れるかわいい定番メニューということで「にこにこおにぎり」「さくさくチキン」「ペンギんはんぺん」「たまごやき」などをつくった。

〈グループで調理実習〉デモンストレーションのあと、グループに分かれて調理を開始した。各グループの構成は、多国籍となるようにし、日本人も含めてできるだけ日本語でコミュニケーションをとりながら調理をした。おしゃべりをしたり、わからないところを教えあったりしながらも、参加者のほとんどが主婦だったため、てきぱきと作業が進んだ。日本人のスタッフは、料理の日本語の語彙(例;おべんとうをつめる、型を抜く、はんぺん、だし、いろどり、薄焼き卵、隙間をうめるなど)を実践を交えて示した。

〈仕上げ〉一通り調理ができたところで、各自持参した弁当箱へ材料をつめた。隙間なくいろどりとよくという講師からのアドバイスに、感心した様子の参加者が多かった。またできあがったかわいらしいお弁当を写真に収めている参加者もいた。

〈試食・片付け〉時間がある人は引き続きお弁当を試食し、片づけを全員で行って終了した。



【第8回 11月9日(土)10:00~12:00 伊賀良公民館 学習テーマ:「日本の習慣・マナー」】

参加者:8名 ファシリテーター:大澤志那子

〈準備・事前打ち合わせ〉講座開始30分前にスタッフが集合し、会場設営とお茶等の準備を行った後、講座の進行について簡単に打ち合わせを行った。

〈グループトーク〉開会后参加者は二つのグループに分かれ、子育ての場面で出会う出産祝い金などの「お金」について話した。各グループの日本人スタッフが、話の中で出てきたキーワードを付箋へ記入し、模造紙へはっていった。

〈グループトークの発表と共有〉キーワードが書かれた付箋をもとに、各グループで出たことを発表した。同時に付箋の貼ってある模造紙を見せ合った。

〈お祝いについてまとめ〉グループトークでも話題になっていた、さまざまなお祝い金について、種類や金額、お返し(内祝)のことなどについて、全体でプリントを見ながらまとめた。

〈お祝い受け渡しの言葉と作法〉お祝いを渡すとき、もらうとき、何と言ったらいいか、どういう作法がいいのかなどについて、全体で経験談なども交えて話したあと、一組の受講者にお祝いを渡しに訪問した際の場面を寸劇にしてもらって発表した。

〈冠婚葬祭の服装について〉結婚式、葬式、学校の式典などの服装は、どんなものが良くてどんなものが良くないのか、たくさんの服装の写真をそれぞれの場面または複数の場面でよいものを選んだ。グループごとに参加者同士で考えながら仕分けていった。一通りできたところで、難しかったものについて出してもらいフィードバックした。また、のしづくろの種類や用途も実物を見ながら確認した。

〈雑談〉参加者の母国での内祝の習慣等について、話した。

〈まとめ・終了〉全体で質疑応答をし、次回の予告をして終了した。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

飯田市で外国人向け子育て講座の開催は初めての取組とあり、実験的に行なった。外国人・日本人の母親で構成する企画委員会を立ち上げ、子育ての悩みや知っておくと役立つ子育ての知識等を意見交換しながら講座を組み立てた。多くの方に受講してもらえよう、休日・平日の両方で開催し、開催場所を外国人が集住する二つの地区公民館とした。

全12回の講座修了後、受講者・企画員から聞き取り調査を行ない、一番関心の高かった「子どもの言葉の発達」をテーマとした講座を、子育て中の親と外国籍の子どもの支援に関わる人を対象に、講師を招いてアンコール開催した。

目標の達成状況としては、受講者には異国で子育てをする上での様々な不安や問題を他の親と共有し「悩んでいるのは自分だけではない」という安心感を持っていただけたと考え、概ね達成できた。その裏付けとして、各講座でテーマについて自由に話し合う時間を設けたことから子育てに関する悩みや疑問等が出て、日本人がアドバイスしたり、同じ出身国者同士で情報交換したりする場面があった。時折、家庭での愚痴をこぼし、お嫁さん同士で共感し合うこともあった。地域の学級等への参加については未だ途上にある。今後はつどいの広場をはじめ、地域の子育ての拠点に関わる人とのヨコのつながりを整備していくことが第一歩と考える。

講座内容に関する成果は下記のとおり。

『子育てとにほんごで良かったこと』

◆対象:受講者

◆検証方法:聞き取り調査

- ・「保育園生活」子どもが来年保育園に入園するので、保育園での生活の流れや、入園準備品などがわかった。
- ・「日本の遊びや歌」覚えた童謡は、子どもと一緒に歌って遊べたので良かった。馬やバスを真似る身体遊びは今でもやっている。
- ・「予防接種」年々変わっていくことなので聞けて良かった。
- ・「お弁当をつくってみよう」紹介してもらったレシピでから揚げを何度も作った。
- ・「子どもの言葉の発達」子どもが発達していく過程で“できない”ことで泣いていることがあると知り、子どもの気持ちがわかり、子どもの目線で見えあげられる気がする。
- ・「子どもの言葉の発達」子どもにベトナム語を教えるかどうか悩んでいて、歌等で自然に覚えさせるのが良いと聞いて良かった。

『企画員として企画・運営に携わってみて』

◆対象:企画委員

◆検証方法:聞き取り調査

- ・どこの国でも、子どものために何かしてあげたいというお母さんの気持ちは一緒とわかり、胸が熱くなった。(韓国出身)
- ・子育ての悩みは、一人で悩むのではなく、誰かに相談すれば解決できることを知った。(ベトナム出身)
- ・今まで日本人としか接して来なかったが、こんなに多くの国籍の人たちと一緒に住んでいたんだ！と実感した。(日本出身)
- ・国を越えて母親の気持ちを共有できた。日本人よりも日本人らしい一面を見たり、熱心に勉強する姿に刺激を受けた。(日本出身)

特別企画『いっしょにかんがえよう♪子どものことば』

◆対象:受講者【保護者】

◆検証方法:アンケート

- ・日本の子どもに勉強を教える方法を勉強したい。(中国出身)
- ・母国語を話しても、子どもの日本語の勉強に影響しないことがわかり、今までの考え方が変わった。(中国出身)

◆対象:受講者【支援者】

- ・抽象的には理解できている内容も、現実に子育てしている外国籍の人には難しいことだと感じた。(日本語支援者)
- ・母語と日本語100%・100%ということはできないので、母語で自信を持って話す方が良いとわかり、悩んでいたお母さん方はとても嬉しかったと思う。日本語以外の言語を話せることがすごいことだということを子どもが意識できると良いと思う。(日本語支援者)
- ・サポート体制を、教育委員会・子育て支援課・その他といった具合に横につなげてほしい。(保育園関係者)
- ・母語がいかに大切か再確認した。外国籍の子どもたちにとってどんな日本語指導が良いのか、難しくなる学習言語をどう教えていったら良いか、今後の課題。(小学校教諭)
- ・母親は家庭で母国語を話す、子どもは家庭外で日本語を学んでくる。現場の教師から母国語と日本語が中途半端になっている子どもが多いと聞いていたので、母語が大切という先生の話は目からウロコが落ちた。(日本語支援者)

(10) 改善点について

・7～12月まで全12回の連続講座としたが、開催曜日にバラつきがあり、受講者がスケジュールを把握できず、参加し忘れることがあった。例えば3回×4期のように区切って同じ曜日で開催すると、参加しやすいかもしれない。

・平日・休日の両方で講座を開催したが、受講者の多くが仕事をしておらず、どちらの曜日でも参加していただけた。働いている親は、忙しく子育て講座を受講する余裕がないという捉え方もできる。専業主婦・働いている親の両方でニーズが違うことも考えられる。外国人の子育てに関する意識調査のようなものを実施してみても良いだろう。

・講座のチラシは、開催地区に住む0～3歳の外国籍の子どもを持つ親宛てでダイレクトメールを送付した。ダイレクトメールを見て受講したという方が多かったので、次回は全市的に送付したい。

子育て企画委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 5月20日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 秋姫政、大澤志那子、熊 谷文世	・事業の説明 ・子育て中の外国人のニーズ	・講座の内容について
2	平成25年 5月27日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、 大澤志那子、熊谷文世	・講座の進め方 ・講座の組み立てについて	・開催地区 ・開催日時 ・受講形態
3	平成25年 6月5日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、 ゲン トク ゲトウ、大澤 志那子、熊谷文世	・前回企画委員会の意見見直し ・講座の組み立てについて	・講座の内容について ・チラシのデザイン
4	平成25年 6月17日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、 ゲン トク ゲトウ、大澤 志那子、熊谷文世	・講座の内容の仮決め	・講座の担当決め ・受講者の募集について
5	平成25年 7月2日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 秋姫政、イヱ マルリセ ユリ、 ゲン トク ゲトウ、大澤 志那子、熊谷文世	・各担当講座で何をしたいか	・講座を進めていくにあたり 不安に思うこと
6	平成25年 7月31日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 イヱ マルリセ ユリ、ゲン トク クゲトウ、大澤志那子、 熊谷文世	・事業進捗状況 ・第3・4回の講座の内容について	・どんなお弁当を作ってみた いか
7	平成25年 11月18日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 秋姫政、ゲン トク ゲトウ、 大澤志那子、熊谷文 世	・第10・11・12回講座の内容について	・アンコール開催する講座に ついて
8	平成26年 2月3日 13:00～ 15:00	2時間	飯田市公民館	木村深幸、平岩美代子、 秋姫政、ゲン トク ゲトウ、 大澤志那子、熊谷文 世	・特別企画「いっしょにかんがえよう♪子どものこと ば」の講座組み立てについて	・基調講演の内容 ・子どもの言葉の発達につい て疑問に思うこと、悩み

○取組2:わいわいサロンⅡ前期 ~祭り~

(1) 体制整備に向けた取組の目標

これまで祭りにはお客さんのみに参加していただけだった外国人の方々が、講座で地域の方々から学ぶことで、伝統行事への理解を深めてもらう。そして地域社会へ一歩踏み出す勇気を持ってもらい、地域の行事などに積極的に参加していってもらうことを目指す。

(2) 取組内容

- ・24年度に開講した、生活のために必要な実践的な日本語を学ぶ教室を、再び開設する。
- ・扱うテーマは期間を通して3つほどとし、その中のひとつに地域の祭りについて理解を深めるものを設ける。秋祭りや毎年恒例のイベントがある時期に行い、実際の祭り等へも学習者が参加体験できるようにする。
- ・教室の内容を検討する企画委員会を設け、地元の獅子舞保存会や自治会役員の方々等にもメンバーに加わっていただき、一緒に企画をする。
- ・祭り以外のテーマについては、日本語支援者が中心となって授業の内容や進行を検討し、必要に応じて教材も作成する。

(3) 対象者

成人で日本語を学びたい人

(4) 参加者の総数 22 人

(出身・国籍別内訳 フィリピン2人、ブラジル7人、中国8人、ポーランド1人、アメリカ1人、台湾1人、モンゴル2人)

(5) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 10 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 7月8日 19:00~ 21:00	2時間	県公民館	12人	ブラジル(4人)、 中国(3人)、アメリ カ(1人)、ポー ランド(1人)、台 湾(1人)、モン ゴル(1人)、フィ リピン(1人)	病院で自分の 症状を伝える	病院で自分もしくは家族の症状について、簡単に説明できるようになることを目標とした。様々な症状があるが、全体では風邪の症状とし、グループでの練習の中で、レベル差に対応した。	大澤志那 子、馬本綾 子、木下弘 子、小池由 紀、後藤信 義、篠田初 美、下岡恭 子、ジャロ 京子、向山 敦子、八木 孝子、山崎 ルミ、米山 久美子	堀川美也子、 青山知子
2	平成25年 7月15日 19:00~ 21:00	2時間	県公民館	9人	ブラジル(4人)、 中国(4人)、台 湾(1人)	病院で医師や 看護師に質 問する	病院の診察が終わったあと、医師や看護師に質問ができればできるようになることを目標とした。薬、病状、食べ物、子どもの場合気をつけること、などについて、レベルに応じて学習した。	大澤志那 子、小池由 紀、後藤信 義、ジャロ 京子、八木 孝子、山崎 ルミ、米山 久美子	堀川美也子、 大嶋多恵子
3	平成25年 7月22日 19:00~ 21:00	2時間	県公民館	11人	ブラジル(4人)、 中国(3人)、アメリ カ(1人)、ポー ランド(1人)、台 湾(1人)、モン ゴル(1人)	学校や職場で 欠席や早退し たいことを伝 える	学校や職場で欠席や遅刻の連絡ができるようになることを目標とした。主に電話連絡を中心に練習した。言葉だけでなく連絡するタイミングなどについても学習した。	下岡恭子、 井口一紀、 馬本綾子、 木下弘子、 久保田巧、 篠田初美、 向山敦子、 玉井真由 美、八木孝 子	堀川美也子、 鶴川真弓
4	平成25年 7月29日 19:00~ 21:00	2時間	県公民館	11人	ブラジル(3人)、 中国(3人)、モン ゴル(2人)、アメリ カ(1人)、ポー ランド(1人)、台 湾(1人)	学校や職場で 問題を相談す る	前の週に続き学校や職場で連絡や相談をする学習をした。学校行事などで半日休みなどの少し複雑な申し出ができるようになるための練習もした。	下岡恭子、 井口一紀、 馬本綾子、 木下弘子、 久保田巧、 篠田初美、 向山敦子	堀川美也子

5	平成25年 8月19日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	9人	ブラジル(4人)、 中国(4人)、台 湾(1人)	ゴミ分別の ルールや環 境について考 える	市の環境課1名とごみの適正処理啓 発市民ボランティア8名が講師。ゴミ 分別のシミュレーションやO×クイズ 等を実施した。	福田絵都、 ジャロ京子、 小池由紀、 後藤信義、 八木孝子、 山崎ルミ、米 山久美子	堀川美也子
6	平成25年 8月26日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	7人	ブラジル(4人)、 中国(2人)、台 湾(1人)	「自治会」「公 民館」の仕組 みを学ぶ	前半は市役所の自治会担当者を講 師に迎え、自治会や隣組等について 学習した。後半はグループごとサー クルを作り、公民館へ団体登録する シミュレーションを行った。	深尾仁、大 澤志那子、 小池由紀、 後藤信義、 ジャロ京子、 八木孝子、 山崎ルミ、米 山久美子	堀川美也子、 大嶋多恵子
7	平成25年 9月2日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	8人	中国(4人)、ブラ ジル(2人)、フィ リピン(1人)、台 湾(1人)	冠婚葬祭のマ ナーや言葉を知 る	冠婚葬祭のマナーや言葉について、 グループでの話し合いを中心に学習 した。地域や宗教によって作法など も違うため、あまり細かいことには触 れず一般的な考え方について話し た。また学習者の出身地域のこと についても話し合うことができ良か った。	下岡恭子、 井口一紀、 馬本綾子、 木下弘子、 久保田巧、 篠田初美、 向山敦子、 玉井真由美	堀川美也子
8	平成25年 9月9日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	7人	ブラジル(3人)、 中国(3人)、台 湾(1人)	美容院で好き な髪形を伝え る	学習者のレベルに合わせて、「短く して」などの基本的な言い方から、「え りあしをそろえて」など少し複雑な表 現や語彙まで学んだ。	下岡恭子、 井口一紀、 馬本綾子、 木下弘子、 久保田巧、 篠田初美、 玉井真由美	堀川美也子、 大嶋多恵子
9	平成25年 9月30日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	11人	ブラジル(4人)、 中国(4人)、フィ リピン(2人)、台 湾(1人)	県地区の獅子 舞について お話を聞く	県中平地区獅子舞保存会の方にお 越しいただき、獅子舞の歴史や意 味、この地方独特の大型の屋台獅子 のここと、伝統を守ろうとする熱い想 いなどを講義していただいた。	戸崎敬、大 澤志那子、 馬本綾子、 後藤信義、 篠田初美、 下岡恭子、 ジャロ京子、 向山敦子、 八木孝子、 山崎ルミ、米 山久美子	堀川美也子、 大嶋多恵子
10	平成25年 10月14日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	9人	ブラジル(5人)、 中国3人、台湾 (1人)	獅子舞の練 習見学、地元 のみなさんと おしゃべり	前回お話を聞きした中平地区の獅子 舞フェスティバルへ向けての練習 風景を見学させていただいた。熱心 に練習する子どもさんたちや、教える 大人の真剣な様子を見せていただ いた。実際に獅子頭を触ったり、参加 している方のお話もうかがうことが でき、地域の伝統芸能を支えている 人々について知る機会となった。	戸崎敬、木 下弘子、後 藤信義、下 岡恭子、ジャ ロ京子、向山 敦子、八木 孝子、山崎 ルミ	

どのくらい
にほんご を
つかっていますか？

いいた の ことを
していますか？

にほんご
日本語がまだあまり話せない人たちが、
“つかえる日本語会話”を勉強する
きょうしつ ひら
教室を開きます。

むりょう
無料です。

べんきょう ないよう うらめん み
勉強する内容については裏面を見てください。

さんかきぼう かた もうしこみしょ きにゅう
参加希望の方は、裏面の申込書へ記入して、

こうみんかん しやくしょまどぐち ちようしやだんじよきやうどうさんかくか
公民館・市役所窓口・りんご庁 舎男女共同参画課へ
出してください。

飯田市公民館

にほんご教室

7月8日から
10月14日まで10回
月曜日
よる 7時～9時
かやえこうみんかん
会場： 県 公民館4F

問い合わせ： 飯田市公民館 TEL0265-22-1132 (くまがい)

名前 _____ TEL _____ ☆

住所 _____ 出身 (国籍など) _____ ☆

日本語教室の名前 「わいわいサロンⅡ」

	にちじ 日時	きょうしつ べんきょう 教室で勉強すること
1	7月8日(月) 19:00~21:00	びょういん じぶん しょうじょう 病院で自分の症状をつたえられるようになろう
2	7月15日(月) 19:00~21:00	びょういん いしと かんごし 病院で医師や看護師にしみこんでできるようになろう
3	7月22日(月) 19:00~21:00	がっこう しょくば けつぎ せうたい 学校や職場で欠席や早退したいことをつたえてみよう
4	7月29日(月) 19:00~21:00	がっこう や しょくば で 問題 を 相談 できる よう に なろう
5	8月19日(月) 19:00~21:00	ゴミ分別のルールや環境について考えよう
6	8月26日(月) 19:00~21:00	「自治会」って何? 「公民館」ってどんなところ?
7	9月2日(月) 19:00~21:00	冠婚葬祭のマナーやことばを知ろう
8	9月9日(月) 19:00~21:00	美容院で好きな髪型をつたえられますか?
9	9月30日(月) 19:00~21:00	祭り① 県地区の獅子舞についておはなしを聞く
10	10月14日(月) 19:00~21:00	祭り② 獅子舞の練習見学、地元のみなさんとおしゃべり

【熊谷公民館 地図】



(7) 参加者の募集方法

幼稚園・保育園、小中学校へチラシ配布、市役所外国人相談窓口にてチラシ設置、新聞掲載、外国人キーパーソンに呼びかけ依頼、外国人が集う飲食店にてチラシ設置

(8) 特徴的な活動風景

【第6回 8月26日(月) 19:00~21:00 県公民館 学習テーマ:「自治会」「公民館」の仕組みを学ぶ】

参加者:7人 講師:深尾仁氏(飯田市役所地域づくり庶務課) ファシリテーター:大澤志那子

〈自治会、まちづくり委員会等について説明〉多言語に翻訳した自治会の説明の資料や、パワーポイントの組織図、自治会加入促進パンフレットなどを見ながら、隣組や自治会の組織の成り立ちや役割等について説明していただいた。

〈グループトーク〉深尾さんの説明を受けて、各グループごとにわからないことはなかったかななどを支援者と学習者が話して確認した。

〈質疑〉ここまでの話で質問がある人からいくつか質問が出された。

〈公民館について導入〉現在教室をやっている場所も公民館であるが、公民館とは果たしてどんな場所なのか考えてみようというテーマの喚起をした。

〈公民館の概要〉ファシリテーターが公民館に関する疑問を公民館職員の熊谷さんへ投げかける形で、公民館とは地域住民の学習の場であることなどについて確認した。

〈サークル登録シミュレーション〉座っているグループのメンバーで、何か趣味のサークルを架空でつくことにし、それぞれの活動の内容・頻度・時間・場所などを話し合っ決めて。できたグループから、公民館へ相談に行くという想定で、熊谷さんへ、「〇〇のサークルをつくりたいんですが、、、。」と言って、熊谷さんからサークルを登録すること勧められその説明を受けた。その後登録用紙に実際にできる箇所を記入し、登録手続きの流れをやってみた。3つのグループ全部がシミュレーションを体験した。カラオケ、料理、バトミントンなどの架空のサークルができたが、好きな活動について話すので、楽しそうに話が弾んでいた。

〈まとめ〉本日の授業を振り返り、各自評価シートへ感想等を記入した。まだ残ってくださった市役所の深尾さんへお礼のあいさつをし、終了。



【第8回 9月9日(月) 19:00~21:00 鼎公民館 学習テーマ:美容院で好きな髪形を伝える】

参加者:7人 ファシリテーター:下岡恭子

〈事前打ち合わせ〉開始15分前に、日本語支援者とファシリテーターで、学習の進め方について打ち合わせた。
〈グループトーク〉日本で美容院に行った経験や行かない理由等を自由に話した。その後話した内容をそれぞれ発表し共有した。
〈寸劇〉ファシリテーターと日本語支援者数人で、美容院で希望をうまく伝えられた人、伝えられなかった人の寸劇を発表した。
〈表現・語彙の提示と解説〉美容院で希望を伝える際によく使う表現や語彙を提示し、意味の確認をした。
〈グループトーク〉「きょうはどうしますか」と美容院で聞かれたときどういったらいいかをグループで話し合い、出た意見を発表した。
〈グループ練習〉ファシリテーターが整理した表現等を使用して、希望する髪型を伝える練習をグループで行った。日本語支援者が店員役をした。
〈発表〉各グループから一人ずつ前へ出て、練習した会話を発表し、ファシリテーターがフィードバックした。
〈まとめ〉各自評価シートへ感想等を記入し、次回の予告をして終了。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

わいわいサロンⅡ前期は、地域に古くから伝承される獅子舞について学ぶことを中心に据え、“地域活動”に触れるテーマで学習を進めた。その前段として、「ゴミの分別ルール」や「自治会、公民館」について学ぶテーマも設けた。中でも、ゴミの分別ルールについては、日本語教室を開催した鼎地区まちづくり委員会の環境衛生委員による「外国人住民にゴミ分別について知ってもらいたい」という声から具体化し、ゴミ分別について啓発活動をしている市民ボランティアを講師に招いた。自治会については、外国人集住地区で課題となっている、外国人の組合未加入による地域活動不参加を受けて学習テーマに設定。自治会組織の構成や組合活動の目的、利点について、市の担当課職員が講師となり説明した。獅子舞に関しては、獅子舞保存会役員の方を講師に、獅子舞の由来や獅子舞を舞う意味などの話を聞き、地域のみなさんの練習風景を見学し、獅子頭を持つといった体験も行った。

これら一連の学習を通して、受講者からは「飯田市のまちづくりや自治会の話では、たくさんの人の力でこのまちを良くしていることがわかった。組合に入っていないのでわからないことが多い。こんな私でも、いつか飯田のまちづくりのために何かできればいいと思う」「獅子というものの存在は知っていたが、ストーリーを聞いて最初から動きを見たら素晴らしいものだった」といった感想が寄せられた。講師からは、「ゴミの分別ルールに対する理解促進は、日本語教室のような場で地道に実施していくことが肝要である」(飯田市ごみの適正処理啓発市民ボランティア)、「外国人も日本人も関係なく、区民が保存会員。せっかく地域と縁ができたのだから祭りにもどんどん参加してもらえれば」(獅子舞保存会役員)、「社会情勢が変化する中で、外国人の方々を含めた地域コミュニティの強化をどのように進めていくかという課題はあるが、地域に住む方々がお互いに助け合いながら、安全・安心な生活が営まれるようにするために、生活のための日本語教室を開催する必要性を強く感じた」(市役所・自治活動組織加入促進担当)という声が聞かれた。

(10) 改善点について

- ・より多くの人に受講してもらえよう、開催時間、曜日を見直したい。
- ・市役所職員が講師の時、行政用語が出てきて学習者が理解できていない場面があった。市役所職員等を対象に“わかりやすい日本語”研修のようなものを実施する必要性がある。

指導者研修の開催について

(1) 取組内容

わいわいサロンⅡ前期 ～祭り～の一環として、指導者研修を開催。地域の日本語教室で支援しているボランティアが、外国人に日本語を教える上で大切な心構えや技術を見直し、資質向上を図る機会とする。

(2) 対象者

日本語支援をしている人、志している人

(3) 参加者の総数 13 人

(出身・国籍別内訳 日本13人)

(4) 開催時間数(回数) 3 時間 (全 1 回)

(5) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 7月20日 13:00～ 16:00	3時間	県公民館	13人	日本(13人)	ボランティア 教室における 対話型活動を 充実させるた めに	1. 日本語ボランティア教室の方向性 2. 対話型活動の概要 3. 文字の扱い方 4. ワークショップ	横内美保子	

○取組3:わいわいサロンⅡ後期 ～わたしのまちを知る～

(1) 体制整備に向けた取組の目標

飯田市公民館活動が活発なことで有名だが、外国人にとってはまだまだ遠い存在で、その存在すら知らない人が多い。今回まちづくり委員会や公民館の活動について理解を深めることで、住民の学びの場である公民館を、同じ地域住民である外国人も自らが主体的に活用していくことを目指す。

(2) 取組内容

- ・24年度に開講した、生活のために必要な実践的な日本語を学ぶ教室を、再び開設する。
- ・扱うテーマは期間を通して3つほどとし、その中のひとつに地域の歴史やまちづくりについて理解を深めるものを設ける。公民館活動などで住民が主体となって地域の歴史を学習したり、街の清掃や美化に務めている地域の関係者等にご協力いただく。
- ・教室の内容を検討する企画委員会を設け、地域の公民館委員やまちづくり委員などの方々にもメンバーに加わっていただき、一緒に企画をする。
- ・まちづくり以外のテーマについては、日本語支援者が中心となって授業の内容や進行を検討し、必要に応じて教材も作成する。
- ・25年度事業のまとめに特別企画として、外国人が集住する常盤台区の日中交流会で日本語教室を実施。

(3) 対象者

成人で日本語を学びたい人

(4) 参加者の総数 91 人

(出身・国籍別内訳 フィリピン2人、台湾1人、ブラジル4人、中国51人、モンゴル1人、日本32人)

(5) 開催時間数(回数) 23 時間 (全 11 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 11月18日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	12人	フィリピン(2人)、台湾(1人)、ブラジル(4人)、中国(4人)、モンゴル(1人)	近所の人とおしゃべりしてみよう①	「こんにちは」等の挨拶の後につながる会話ができるようになるために、「お世話になります」や、天気の話などを練習した。聞いたことはあっても使ったことがなかった学習者が多く、口が回るようになるまで熱心に練習していた。グループごと簡単な会話を作り発表することもできた。	大澤志那子、井口一紀、木下弘子、後藤信義、篠田初美、下岡恭子、ジャロ京子、向山敦子、八木孝子、山崎ルミ	大嶋多恵子、青山知子
2	平成25年 11月25日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	8人	フィリピン(1人)、台湾(1人)、ブラジル(2人)、中国(3人)、モンゴル(1人)	道路にある標識や街で見かける注意書きについて知ろう	「危険」「口禁」などの注意書き、街で見かける標識やマークの意味がわかるようになることを目的として行った。漢字が含まれるものは特に非漢字圏出身者にとっては難しいため、多くは扱わず、大事なものの数個にとどめた。よく見かけるが意味がわからなかったマーク等も意外に多いことがわかり、有意義な活動となった。	下岡恭子、馬本綾子、篠田初美、ジャロ京子、木下弘子	大嶋多恵子、青山知子
3	平成25年 12月2日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	8人	フィリピン(1人)、台湾(1人)、ブラジル(2人)、中国(3人)、モンゴル(1人)	地域の趣味サークルに参加してみよう	教室の会場として使用している県公民館に登録している趣味のサークルに、学習者が体験的に参加する(教室以外の時間)こととし、参加の是非を問い合わせる電話で必要な会話を練習した。練習後、実際に何人かが電話をし、体験の申し込みをすることができた。	大澤志那子、木下弘子、ジャロ京子、向山敦子、八木孝子、山崎ルミ	
4	平成25年 12月9日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	8人	フィリピン(1人)、台湾(1人)、ブラジル(2人)、中国(3人)、モンゴル(1人)	銀行や郵便局を利用できるようにしよう	口座を開設する際の会話や、不在票を受け取った時の再配達への対応等を学習した。日本ならではの捺印の文化や、郵便振替は手数料がかからないといったことを改めて知る機会となった。	下岡恭子、篠田初美、ジャロ京子、木下弘子	大嶋多恵子、青山知子
5	平成25年 12月16日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	9人	フィリピン(2人)、台湾(1人)、ブラジル(2人)、中国(3人)、モンゴル(1人)	年賀状を書いてみよう	教室に参加している人同士で年賀状を出し合うこととし、実際に作成する活動をした。宛名の書き方や、年賀状独特の文句などを紹介し、スタンプやシール等も駆使して、各自が1～2枚を書き上げた。授業後各自で切手を貼って投函した。漢字での宛名はかなり苦労している方もいたが、楽しい活動になり、みなさん素敵な年賀状を作ることができた。	木下弘子、井口一紀、ジャロ京子、向山敦子、八木孝子、山崎ルミ	大嶋多恵子、青山知子

6	平成25年 12月23日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	6人	フィリピン(2人)、台湾(1人)、中国(1人)、モンゴル(1人)、ブラジル(1人)	忘年会	クリスマスも近いことから、料理等を持ち寄って、クリスマス忘年会を行った。各国のじゃんけんを紹介して全員でやってみたり、福笑いをしたりして楽しいひとときとなった。	篠田初美、 下岡恭子、 ジャロ京子、 向山敦子、 八木孝子、 山崎ルミ、 米山久美子	
7	平成26年 1月6日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	8人	フィリピン(1人)、台湾(1人)、ブラジル(2人)、中国(3人)、モンゴル(1人)	近所の人とおしゃべりしてみよう②	お正月の挨拶や、お正月行事について近所の人と話す練習をした。いつ、そしていつまで「おめでとう」と言っているかなどの言葉以外の部分も、グループでの活動の中で学んでいた。後半は、学習者の国のお正月の様子を話してもらって、さまざまな文化の違いを感じることができた。	下岡恭子、 馬本綾子、 篠田初美、 ジャロ京子、 後藤信義	大嶋多恵子、 青山知子
8	平成26年 1月20日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	8人	フィリピン(1人)、台湾(1人)、ブラジル(2人)、中国(3人)、モンゴル(1人)	ゴミ分別のルールや環境について考えよう	前期に引き続き、市役所環境課とゴミ分別啓発ボランティアの方々にお越しいただいて、分別のルールや意味を考えるワークショップを行った。分別の細かいルールは複雑で、日本人でも初めて知ることもあり、勉強になったとの声も多かった。クイズなども取り入れ、楽しくごみについて学ぶことができた。	福田絵都、 ジャロ京子、 馬本綾子、 後藤信義、 下岡恭子、 向山敦子	大嶋多恵子、 青山知子
9	平成26年 1月27日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	8人	フィリピン(1人)、台湾(1人)、ブラジル(2人)、中国(3人)、モンゴル(1人)	公共施設をもっと利用できるようなろう	公民館や勤労者福祉センター等公共の施設を借りて利用することができるということを知り、その使用申し込みができるようになることを目的に学習した。グループで仮想のイベントを考え、そのイベントを行う会場の申し込みをシミュレーションしてみた。電話をかけて空き状況を確認し、実際に出向いて申し込みをするところまでをやった。用紙はすべて日本語のため、記入するのは難しいが、わからないときの尋ね方やローマ字での記入も可能なことなども確認した。	大澤志那子、 木下弘子、 ジャロ京子、 向山敦子、 八木孝子、 山崎ルミ	大嶋多恵子
10	平成26年 2月3日 19:00～ 21:00	2時間	県公民館	9人	フィリピン(2人)、台湾(1人)、中国(4人)、モンゴル(1人)、ブラジル(1人)	住んでいる地域のいいところを探してみよう	飯田下伊那地域でおすすめの場所の情報を交換しあう中から、グループで1箇所を選び、おすすめのポイントをまとめて発表する活動をした。発表時、発表グループのメンバーでもそこへ行ったことがない人は質問することで発表を盛り上げることができた。住んでいる地域のいいところを再発見することができた。	篠田初美、 井口一紀、 馬本綾子、 木下弘子、 後藤信義、 下岡恭子、 ジャロ京子、 向山敦子、 米山久美子	大嶋多恵子
11	平成26年 3月2日 10:00～ 13:00	3時間	常盤台集会所	80人	中国(47人)、日本(32人)、ブラジル(1人)	ゴミ分別のルールや環境について考えよう	常盤台区の日中文化交流会の一環。「暮らしの情報交換会」と題して市役所環境課とゴミ分別啓発ボランティアの方々と共に分別のルールや意味を考えるワークショップを行なった。併せて26年度から市で施行となるポイ捨て防止条例の説明も実施。ごみを捨てる行為と「ポイ捨て」という日本語が結びつくよう解説を行ない、なぜポイ捨てをしてはいけないのか説いた。	大澤志那子	

どのくらい
にほんごを
つかっていますか？

いいたのこを
していますか？

日本語がまだあまり話せない人たちが、
“つかえる日本語会話”を勉強する教室を開きます。
無料です。

勉強する内容については裏面を見てください。

参加希望の方は、裏面の申込書へ記入して、公民館・市役所
窓口・りんご庁吉男女共同参画課へ出してください。

にほんご教室

11月18日から
2月3日まで10回
月曜日

よる 7時～9時

会場：かなえこうみんかん 県公民館4F

問い合わせ：いしづきこうみんかん 飯田市民館 Tel.0265-22-1132 (くまがい)

名前 _____ Tel _____ ☆

住所 _____ 出身 (国籍など) _____ ☆

日本語教室の名前 「わいわいサロンⅡ」 (2013 年後期)

～地域住民として暮らしていくために～

	日時	教室で勉強すること
1	11月18日(月) 19:00～21:00	近所の人とおしゃべりしてみよう①
2	11月25日(月) 19:00～21:00	道路にある標識や街で見かける注意書きについて知ろう
3	12月2日(月) 19:00～21:00	地域の趣味サークルに参加してみよう
4	12月9日(月) 19:00～21:00	銀行や郵便局を利用できるようになろう
5	12月16日(月) 19:00～21:00	年賀状を書いてみよう
6	12月23日(月) 19:00～21:00	忘年会
7	1月6日(月) 19:00～21:00	近所の人とおしゃべりしてみよう②
8	1月20日(月) 19:00～21:00	ゴミ分別のルールや環境について考えよう
9	1月27日(月) 19:00～21:00	公共施設をもっと利用できるようになろう
10	2月3日(月) 19:00～21:00	住んでいる地域のいいところを探してみよう

【 県公民館 地図 】



(7) 参加者の募集方法

幼稚園・保育園、小中学校へチラシ配布、市役所外国人相談窓口へチラシ設置、新聞掲載、外国人キーパーソンに呼びかけ依頼、外国人が集う飲食店にチラシ設置

(8) 特徴的な活動風景

【第8回 1月20日(月) 19:00~21:00 鼎公民館 学習テーマ:「ごみ分別のルールや環境について考えよう」】
参加者:8名 ファシリテーター:ジャロ京子 ゲスト:ごみの適正処理啓発市民ボランティア7名

〈事前打ち合わせ〉開始15分前に、日本語支援者とファシリテーターで、学習の進め方について打ち合わせた。

〈テーマ導入〉午後7時過ぎ、学習者、日本語支援者、ごみボランティアの皆さんが混在するグループを3つづくり着席。ファシリテーターがこの日のテーマについて導入した。

〈ごみ分別ワークショップ〉各グループごと、ごみボランティアのみなさんが用意した15種類ほどのごみのカードが、4種類の中のごみ袋に入れるのがいいのかを考えた。

〈ふりかえり〉全体で分別が難しかったものや、注意が必要なものについて確認し、必要部分のごみボランティアの方々に解説していただいた。

〈資源ごみについて解説〉市役所環境課の福田さんから、資源ごみの出し方等を解説していただき、ごみカレンダーを見ながら、ゴミ出しの日や場所について、学習者それぞれの地域を確認した。

〈〇×クイズ〉引き続き福田さんにより、ごみ分別に関する〇×クイズを行った。グループごとに答えを考えた。

〈グループトーク〉分別がなぜ必要かをグループごとに考えたあと、各グループから意見を求めた。その後、福田さんから解説を受けた。次に分別されたごみはどうなるかについてグループごと考え、最初のテーマと同じく発表した後福田さんの解説があった。最後に、飯田市のごみ処理費用と一人当たりのごみのりょうについて数値を三択で選んでもらい、答えと解説を福田さんからいただいた。

〈質疑〉全体を通して参加者から質問をして、答えられる人が解説をした。

〈まとめ〉各自評価シートを記入し、ごみボランティアのみなさんへお礼を言って終了。



【第10回 2月3日(月) 19:00~21:00 鼎公民館 学習テーマ:「住んでいる地域のいいところを探してみよう」】
参加者:9名 ファシリテーター:篠田初美

〈事前打ち合わせ〉開始15分前に、日本語支援者とファシリテーターで、学習の進め方について打ち合わせた。
〈テーマ導入〉午後7時過ぎ、学習者、日本語支援者がグループを3つ作り着席。ファシリテーターがこの日のテーマとそれに関連する語彙について導入した。
〈グルーブトーク〉飯田下伊那地域の観光パンフレットなどを見ながら、これまでに訪れたことのある場所や行ってみたいところなどについて、グループで話した。
〈グルーブ作業〉前の話で出た場所の中から、ほかの人に勧めたい場所を一箇所選び、お勧めのポイントやアクセス方法などをシートにまとめ、写真等を貼った。
〈モデルの提示〉ファシリテーターがあらかじめ用意してあったお勧めの場所をモデルとして発表した。その後、モデル発表の中で使用していた使える表現について解説した。
〈グルーブ練習〉それぞれがシートにまとめたものを発表する練習をした。
〈発表〉各グループが前へ出て発表した。ひとつひとつが終わったところで、ファシリテーターがフィードバックをし、質問等があれば出してもらった。
〈まとめ〉各自評価シートと教室終了アンケートを記入し、終了。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

後期は、「地域住民として暮らしていくために」というサブテーマを設けて学習活動を展開した。柱となったのが「地域の趣味サークルに参加してみよう」と題し、地区の社会教育関係団体の活動へ参加したことである。日本語教室では、社会教育関係団体に参加の意思を伝えるための会話等を練習し、学習者自ら電話でアポイントを取って参加するよう促した。半ば強制的かつ疑似的に地域で活動する団体へ自主的に入っていく状況を作り出したと言える。ジャズダンスサークルに参加体験をした学習者は、日本語教室が終了した後、サークルに正式加入して通っている。

また、前期に行なった「ゴミの分別ルール」は、内容のブラッシュアップを図るべく後期も実施。前期と同じ内容だが、市役所職員による解説をよりわかりやすくする等で、学習者の理解を求めた。さらに全10回の学習実施後、特別企画として外国人が集住する松尾常盤台区の日中交流会で同学習を出前講座として行ない、併せて新年度から市で施行となるゴミのポイ捨て防止条例についても担当課から説明を行なった。松尾常盤台区には県営・市営団地があり、320世帯中約50世帯の中国帰国者関係者が暮らす。日本人と中国人との間で地域活動を共にできない、中国人によるゴミのポイ捨てがなくなるといったことが課題になっており、食文化による交流会で解決が試みられてきたが、双方向の関係が築けず地区の日本人を悩ませてきた。今回初めて日本語教室による学習交流活動を組み込んだことで参加した中国人は「ポイ捨てダメ！」と口にしていた。地区の日本人は「ポイ捨てされたタバコを拾うたびに限界を感じていたが、中国出身者にも言い分があることを改めて知った。今度はもっと彼らの本音を聞いてみたいからディベートでもやりたい」と話していた。

(10) 改善点について

・学習者との雑談の中で、学習内容の企画について提案があった。今後は学習者も学習内容の組み立てから主体的に関わってもらえると良い。

指導者研修の開催について

(1) 取組内容

わいわいサロンⅡ後期 ～わたしのまちを知る～の一環として、指導者研修を開催。地域の日本語教室で支援しているボランティアが、外国人に日本語を教える上で大切な心構えや技術を見直し、資質向上を図る機会とする。

(2) 対象者

日本語支援をしている人、志している人

(3) 参加者の総数 11 人

(出身・国籍別内訳 日本11人)

(4) 開催時間数(回数) 3 時間 (全 1 回)

(5) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年 11月4日 13:00～ 16:00	3時間	鼎公民館	11人	日本(11人)	ボランティア 日本語活動を 充実させるた めに	ワークショップ1:教室活動で困った ときの対処法 ワークショップ2:やさしい日本語	横内美保子	

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

24年度に地域の関係者との協働で行なった日本語教室「わいわいサロンⅡ」の活動を、さらに関係機関等を拡充したものととして展開する。より多くの関係機関等と連携する過程で、当市の日本語教育を推進する体制整備を図る。教室に参加する学習者が、実践的な日本語を学ぶとともに、日本文化や地域の人々に触れることにより、地域社会へ踏み出していける架け橋的な役割を担えることを目指す。

(2) 事業目的の達成状況

25年度は、外国人の地域参画を見据えた“地域との協働”を目標に掲げ、学習テーマに、自治会やゴミの分別ルール、地域の獅子舞等を選定することで、それぞれの関連部局・関係者に関わっていただいた。こうした方にとっても学習の機会となったようで「外国人住民の存在に改めて気づかされた」「回覧物や通知の多言語化を進めたい」といった声が聞かれた。また、社会教育関係団体のサークル活動を体験した学習者は、その後サークルに正式加入したり、単発のものに度々参加している等、日本語教室の実施後も地域の人と共に学習交流活動を楽しんでいる。これらのことから、事業目的は概ね達成できたと考える。

(3) 地域における事業の効果、成果

今年度飯田市初の外国人向け子育て講座「子育てとにほんご」を開催し、保育士や小児科医、市の保健師といった関係者と連携を図った。事業を展開する中で、“外国人も飯田で子育てをしている”ということが浮き彫りになり、保護者にとっても、関係者にとっても、気づきのある機会となった。全12回の講座を通して、子育て中の親どうしが何気ないお喋りの中から子育ての悩みや近所付き合い等の情報交換をすることで「悩んでいるのは自分だけではない」という気持ちになり、励みになったと聞く。さらに、外国につながる子どもを育てる親にとって一番関心の高い問題が「子どもの言葉の発達」であることも汲み取れた。これを受け、特別企画として「いっしょにかんがえよう！子どものことば」と題した講座をアンコール開催した。講師を迎えて専門的な話を聞いたり、保護者・支援者が輪になって悩みや意見を出し合ったりしたことは意義があり、今後の子育て講座につなげていきたいと考える。また、小児科医からは、地域で発行している「子どもの急病」に関するリーフレットの多言語化について提案があった。さらに市の保健師からは、予防接種をはじめ各世帯に送付する通知の多言語化を進めたいという声が聞かれた。

平成22年度から実施している夜間日本語教室「わいわいサロンⅡ」については、昨年度からステップアップした“地域との協働”を具体化できたと考える。学習テーマに「自治会、公民館」「ゴミの分別ルール」「獅子舞」等、地域活動につながる内容を取り上げたことは第一歩であった。自治会に加入していないというブラジル人男性から「たくさんの方の力でこのまちを良くしていることがわかった。こんな私でも、いつか飯田のまちづくりのために何かできればいいと思う」という感想が寄せられた。また、前期・後期全20回の講座を実施後、全市的に行なっているこの日本語教室の取組を、外国人集住地区で実践することも試みた。中国人が多く暮らす常盤台区の日中交流会で、「ゴミ分別のルール」について出前講座をしながら、新年度より市で施行となるゴミのポイ捨て防止条例の説明をした。中国人の参加者は、「ポイ捨てダメ！」と口にし、地区の日本人は、「中国人と一緒に何かやることに限界を感じていたが、彼らにも言い分があるだろうから本音を聞いてみたい」という反応があった。日本語を一つの手段として国籍や文化の壁を越えた学習交流活動ができたと感じる。また常盤台区には日本人と中国人との間で地域活動を共にできない等の課題があるが、日本語教室がそういった地域課題解決の糸口となる可能性を感じている。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

飯田市には総人口105,593人に対し、2,042人(比率1.9%)の外国人住民が暮らしている(平成25年10月末現在)。日本語教育活動については、公民館、民間団体、中国帰国者支援関係の団体が主催するボランティア日本語教室が4か所あり、それぞれ20年近く活動している。また、厚生労働省の日系人就業準備研修が2009年より毎年実施されている。当市には、大学や日本語学校等の専門機関がないうえ、既存の日本語教室は、学習者が自身の都合に合わせて自由に選べるほどの会場数・開催時間の幅がない。さらに、公共交通機関に限りがあるため主な交通手段が車だが、自宅から遠隔地に日本語教室が開催されると、車を持っていない等の事情により通うことが困難な人もいる。外国人住民の地域参画については、外国人居住率10%以上の公営団地を抱える地区では、言葉や文化の違いが壁となり、地域活動を共にできないといったことが課題となっている。

ii 今後の課題

子育て講座「子育てとにほんご」の実践から、子育ての悩みや素朴な疑問を共有し合える居場所づくりの有用性を感じる。現在、市内で開かれているつどいの広場は8箇所ある。外国人の親にとって地域の子育ての拠点へ行き、ママ友を作ることは壁が高いという声も聞かれる。その壁を取り払い、外国人・日本人の親が自由に語り、互いに子育ての悩みや喜びを共有し合える居場所づくりを課題と考える。地域の子育ての拠点に外国人が行けるようになることで、外国人の地域参画につながることも見込まれる。

また、夜間日本語教室「わいわいサロンⅡ」の学習テーマ「ゴミの分別ルール」は、鼎地区まちづくり委員会の環境衛生委員による「外国人住民にゴミ分別について知ってもらいたい」という声から具体化した。一方で、外国人の学習者からは「より多くの日本人の友達を作りたい」「職場の人とのコミュニケーション」といった要望や学習のアイデアも寄せられている。今後は、日本人・外国人による双方向の協働の仕組みを、公民館活動やまちづくり委員会といった地域組織を活用して構築していきたい。

iii 今後の活動予定

◆子育て講座「子育てとにほんご」の実施

25年度に引き続き、子育てをしている外国人を対象に、子育てに関する必要な知識や日本語を学ぶ講座を実施する。企画・運営には、昨年度の受講者を中心に子育て中の当事者に企画委員として関わっていただき、内容や教材等を検討する。また、地域の子育て関係団体や市の事業等とも連携を図り、地域で開かれている学級や講座へ外国人が参加していけるよう体制整備を行う。

◆日本語教室「わいわいサロンⅡ」の実施

25年度に引き続き、日本語教室「わいわいサロンⅡ」を前期・後期の二期開催する。会場はこれまで定期的には日本語教室がなかった外国人集住地区2箇所の公民館とし、その地域に住む外国人成人を主な学習者対象とする。内容は生活に必要とされる実践的な日本語とともに、地域の文化やそこで暮らしていくために必要な情報などについても学べるものとする。扱うテーマや教材は、25年度も参加していただいた日本語支援者を中心として検討する。

◆飯田市の地域日本語教育における体制整備

「子育てとにほんご」「わいわいサロンⅡ」を開催するにあたり、教室のスタッフだけでなく、様々な方面の関係団体等と協働で企画・運営をする。教室のスタッフと関連部局・関係者で構成される企画会議を教室開講前に行ない、地域との協働による地域日本語教育の体制整備を図る。また、複数の外国人集住地区の公民館で日本語教室を開催することにより、その地区の多文化共生における課題やニーズを汲み取り、地域住民との共有を図ること、外国人の地域活動参画の促進につなげる。